

# JA 佐渡 GAP 通信



令和 4 年 5 月発行

JA佐渡営農事業部 営農企画課

JA佐渡では平成31年1月に『JA佐渡ASIAGAP研究会』を立ち上げ、環境に配慮した持続的な農業の実践に取り組んでいます。令和元年7月には団体認証を取得し、現在は島内6農場と畑野倉庫で認証を取得しています。今年も新たに認証取得に取り組む農場があり、取り組みを拡大しています。

そこで、日々作業に携わっていただいている皆様にもGAPについて知っていただきたく下記のとおりまとめてみましたので、ぜひご一読ください。

## GAPとは？



Good Agricultural Practice の頭文字を取った言葉で、直訳すると『よい農業のやり方』という意味になり、食品安全・環境保全・労働安全など様々な目的で『適正な農業を実践すること』と考えられています。

なぜ GAP に取り組むのかというと…他の農産物と差別化ができて高く売れるようになるためではなく、作業手順の標準化や効率化が図られ、さらには安全性が確保され、その結果としてよい農産物を作り出すことができるようになるのです。GAPでは食品安全、環境保全、労働安全、人権保護、農場経営管理が5本の柱となっています。この項目に対してJA佐渡ASIAGAP研究会では約170個のチェック項目を設け、全てをクリア出来るよう取り組んでいます。



GAP をする



高く売れる

差別化できる



GAP をする



標準化

リスクが減る

経営改善

よいものを作る

## GAPは日常的な取り組み



整理整頓されている現場なら必要な物が探しやすいし、安全に管理することができます。作業手順がルール化されていれば、誰もが同じ手順で無駄なく作業ができます。もしもの事故が起きた時でも、事前に準備されていればパニックにならず対応できます。このような日常的な取り組みがGAPです。一つ一つは難しいことではありませんが、それを継続して実践することが重要です。